

茨城県のひたちなか市立佐野小学校 水上先生から、MEXCBTの利活用についてお話を伺いました。

※ひたちなか市立佐野小学校の作成問題は、問題検索画面で「問題の種類から選ぶ」から「独自作成問題」「一問一答形式」を選択の上、検索・配信することで全国の学校で活用可能です。

■ ■ ■ 学校HPのURL http://www.hitachinaka-knet.ed.jp/sano_e/introduction.html ■ ■ ■

1. なぜ、MEXCBTを使って問題を作成しようとしたのか経緯を教えてください。

・令和3年度に全国学力・学習状況調査のCBT※¹化に向けた試行・検証の実証校としてMEXCBTを活用した問題に取り組み、関心をもったため、令和4年度の教育課程実践検証協力校E-Assessmentに関する国語の協力校に申し込み、MEXCBTの問題作成に取り組みました。

2. 独自作成問題を使ってどのような授業を行ったか教えてください。

・小学校6年国語「みんなで楽しく過ごすために」の確認テストとして位置付け、1単位授業の中で活用しました。

【45分間の授業の内訳】

- 5分：これまでの学習を振り返り、学んだことを確認する
- 20分：CBT形式の確認テストに取り組む
- 5分：各自で結果を確認した後、正答問題を全体で共有する (Googleformsで集計)
- 10分：間違えが多かった問題について、間違えた理由や解決方法をグループで検討する
- 5分：本時と単元全体の振り返りをする

・テスト結果が即座に分かる利点を生かし、児童が間違えやすい問題を把握して、学級全体でつまづきを解消するための学習に取り組むことができました。

3. 問題を作成する際に、工夫した点、苦労した点、感想等があったら教えてください。

- ・CBT形式の問題だからこそできる出題方法を模索した結果、**動画や音声を活用することになりました。動画や音声を活用したテストが実施できる単元を検討した結果、話合いが中心となる本単元を選びました。**
- ・問題は、動画で話合いの様子を見て、適切な言葉を選ばせることとし、自動採点できるようにしました (右図参照)。
- ・国語は著作権を考慮しながら問題作りを進める必要があります。今回作成した問題では、話合いのテーマやシナリオを**教員8名で、会議を行い作成しました。**

4. MEXCBTを使ってみての児童、先生等の反応を教えてください。

- ・児童の感想から、「**動画を何度も見直しながら、楽しくテストに取り組むことができた**」、「**文字で書くよりも文字入力した方が速くできた**」等の意見が挙げられました。一方で、目や耳が疲れたという声も聞かれました。
- ・MEXCBTを活用することで、データベースにアクセスして様々な問題に取り組むことができました。児童の学力の実態や学習意欲に応じて、個に応じた指導の充実のために活用していきたいです。
- ・CBT形式の問題を協働的な学習の中で活用するためには、どのような形式がよいか検討しました。そのような問題が充実してくると、活用の幅が広がっていくと思います。

5. 今後の展望、文科省へのご要望等※²ございましたら教えてください。

- ・問題作成から、公開までの手続きが簡略になると、手軽に問題を作成し活用しやすくなると思います。
- ・教師側で児童のテスト結果を確認する際、個々の設問ごとの正答率が表示される※³と、児童にフィードバックしやすくなると思います。

次の動画は、先ほどの話合いの続きです。あとの問いに答えましょう。

佐野小学校が自慢できる良いところとは、具体的にどのようなところですか？



問題6
鈴木さんは小池さんの話を聞いた後、次のように発言しました。次の()に当てはまる言葉として最も適切なものを、次の中から一つ選びましょう
鈴木さん
「私は、小池さんの話を聞いて(選択肢)。なぜなら、正解しても間違っただとしても、楽しめるアイデアを出しているからです。」

独自作成問題 小学校6年国語
「みんなで楽しく過ごすために」の一部
※吹き出し部分の音声は先生方が演じています



MEXCBTを活用した授業に取り組む児童の様子

※1 CBT=Computer Based Testing コンピュータを使用した調査。
 ※2 文部科学省では、いただいたご意見やご要望を参考に、順次、MEXCBTの改善を進めています。
 ※3 MEXCBTの結果の表示方法は学習eポータルにより異なります。また、学習eポータルの種類は設置者により異なります。